

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1098 2011年9月号

## 四国林政連絡協議会の開催

四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、林野庁担当官を招き第37回四国林政連絡協議会を開催。

【詳細は2頁】



四国林政連絡協議会の様子



2011・国際森林年

## 四国林政連絡協議会を開催

〈企画調整室〉



九月七日、四国森林管理局において、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、林野庁から担当官の出席を得て第三七回四国林政連絡協議会を開催しました。

開会にあたり会長の新木四国森林管理局長から、「この協議会は、四国地区における民有林行政と国有林野の管理経営との連携強化を図り、森林の適正な整備及び林業・木材産業の振興に資することとしており、この協議

会を機に、今後とも、ご参加の各構成機関と、より一層連携を深めながら、森林・林業等の課題について意見交換、情報交換等を行い、今後の方向を見定めていきたい。」と挨拶がありました。

次に開催県である高知県の田村林業振興・環境部長と林野庁計画課川村全国森林計画班担当課長補佐から挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告・審議、林野庁の重点施策である森林・林業基本計画と全国森林計画の改正ポイントについて説明が行われました。

その後、各機関から施業集約化、路網整備、人材育成に関する取組状況や課題等についての話題提供や、各県の林業振興施策の説明、森林総合研究所における林業再生に資する各種研究事例や国有林との連携の状況について説明が行われ、これらの説明に関して各機関からは活発な意見や要望が出され、有意義な意見交換が行われました。

## 「第一回国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整室〉



ある桐ノサコ国有林では、森林技術センターが取り組んでいる人工造林地における保育作業の省力化試験地について、試験内容と現状について説明を受け、併せて育成途上の造林地を間近で見学しました。

次に吉野川上流域の天然林の見学を寒風山周辺の瀬戸山国有林で行い、四国の植生の垂直分布や現地の概況について説明を受け、実際に林内に入つて、天然林と人工林との違いを肌で感じていただきました。

平成二三年八月三〇日、高知県吾川郡いの町において、平成二三年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は好天に恵まれ、四国四県から国有林モニター一四名が参加されました。

## モニター勉強会

最初の見学地で

最後に、嶺北森林管理局署早明浦治山事業所が実施している民有林の地すべり対策事業施工地に移動し、国が直轄事業で行っている地すべり対策工事について、施設の概要や必要性などの説明を受け、





平成二二年度に施工したアンカー工や集水井、現在工事中の床堀の状況を見学しました。

今回の勉強会に参加したモニターの方々は、天然林と人工林の違い、吉野川源流域の森林の状況

や四国森林管理局で行っている事業について、直接目にし、説明に大変熱心に聞き入っておられました。また、活発に質問や意見を述べられて、理解を深められていました。

また、活発に質問や意見を述べられて、理解を深められていました。

## 『夏休み木工教室』開催

### 『カップパカエルの貯金箱』

### 『ふくろう付き鉛筆立て』

### 『コロコロゲーム』作製

〈指導普及課〉



介良潮見台小学校第一放課後児童クラブ外四カ所、高知市初月ふれあいセンター外三カ所より講師依頼があり、高知市内の小

ラムは、森林教室及び木工教室です。森林教室では、森林への理解を深めてもらうた

学生及び保護者約四〇〇名を対象に七月二七日から八月二五日までの約一ヶ月間に森林環境教育を実施しました。カリキュ

め、森林の働きを紙芝居で説明し、その後、森林からの「おくりもの」である、小枝（森林整備から発生した物）及び竹を使っての木工教室を実施

しました。

放課後児童クラブは、先生と低学年の児童が主体で、保護者の方もいないことから、事前に各パーツに加工したものを使って『コロコロゲーム』を作製しました。その他に、『ふくろう付き鉛筆立て』『カップパカエルの貯金箱』を作製しました。

また、高知市教育委員が主催した各ふれあいセンターの「親子夏休み木工教室」では、のこぎりや、ナイフを使い小枝等加工して『コロコロゲーム』及び『カップパカエルの貯金箱』を作製し、特にのこぎりで竹を切るのに悪戦苦闘していました。その後、木製の「国際森林年ロゴマー

クパズル」や、

けん玉ゲームなど、また、木製

ゴム鉄砲射大会を行いました。

今回実施した

木工教室を、夏

休みの宿題の自由研究課題として

いる小学生も

いて、熱心に「この木の樹種名は、

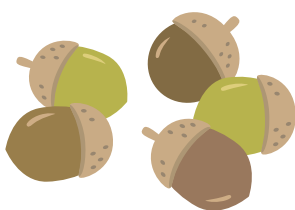
何ですか。」など

森林教室（紙芝居）

の木の樹種名は、何ですか。」など

の質問をされるお母さんもいました。この教室が、夏休みの楽しい思い出となれば幸いです。

この夏休み期間中に、たくさんの児童、先生、保護者の方に森林教室等を実施しましたが、少しでも森林・林業に興味を持って頂き、森林の大切にする気持ちを持ち続けて欲しいと願っています。







顔をのぞかせ、絶好の下草刈り日和になりました。

はじめに、センター所長が大道マツ再生事業の説明を行い、職員が下刈りの方法を実演をした後、実際の作業に取りかかりました。

生徒の中には、林内の歩行に慣れている生徒がいれば、初めてという生徒もあり、その足下はとてもおぼつかないものでしたが、そこは反射神経抜群の若者達、十分もしないうちに歩き方、鎌の使い方ともに上手になり、予定していた時間内に作業を終えることができました。

生徒達からは、「草を切る感触が楽しかった」「この作業でマツが大きくなると思うと嬉しい」との感想がありました。

午後からは、日本最古の複層林と言われている小椎尾山へ向かいました。スギ

の上層木が植えられてから今年で二百一年、下層木が七七年経過しているとの説明を聞き、その生命力の強さに驚いていました。

ふれあいセンターでは、今後もこうした取組を通して、地元と一体となった「大道マツ再生」を進めて行きます。

### ふれあい高城の森で ボランティア活動 〈徳島森林管理署〉

八月三日、釜ヶ谷一〇三林班の「ふれあい高城の森」で(社)高知林業土木協会のボランティア活動が行われました。

ふれあい高城の森(四・五九ha)は、平成一五年に高知林業土木協会「四国の森づくりに参加する会」と協定を締結し、以来、



樹木ガード取付中

間伐や広葉樹の植栽など、毎年二回、森林整備を実施しています。

当日は、協会から約二〇名と当署から次長、森林官、森林ふれあい係長が参加して、前回に引き続き針広混交林に誘導するための広葉樹の植栽を行いました。まず、高知林業土木協会会長、当署次長の挨拶の後、作業手順を確認し、それぞれ作業に取りかかりました。この付近でもニホンジカが増加しているため、植栽

木には樹木プロテクターの設置が欠かせません。参加者は、気持ちの良い汗を流しながら、約二時間かけて一〇〇本の広葉樹を植え込みました。

林業土木協会は、森林の公益的機能の高度発揮や木材生産・森林整備事業のための治山事業や路網整備を担っていますが、近年では森林吸収源対策や「森林・林業再生プラン」の展開のために一般の方々の方々の森林に対する関心が高まっています。

### 皿ヶ峰遊歩道の 樹木名板を立て替え 〈愛媛森林管理署〉

当署としても、こうしたボランティアとの協働で森林の整備を進めることを通じて、森林の持ついる公益的機能の高度発揮や市民の理解と協力が進むように取り組んでいきたいと考えています。

九月五日、「えひめ森の案内人会」「林野監視員」のボランティアの方々と当署職員の総勢二二名によつて皿ヶ峰連峰県立自然公園の皿ヶ峰風景林までつづく遊歩道沿いに設置している樹木名板の立て替え作業を行いました。当日は、大きな災害を起こした台風一二号が通過した翌々日で朝方まで



樹木名板の設置

多くの方が登山されています。今後、森とふれあいの場を大切にしたいため整備を進めていくことにしています。

雨が残り、今にも降雨となりそうな状況で林内も霧がかかった天候でしたが、みなで樹木名板を手分けして持ち、新しい樹木名板を木の根や岩を避けて立て、古い樹木名板を取り外しました。えひめ森の案内人会・林野監視員の方々の手際よい作業で予定よりも早く立て替えることができました。

木の漢字表記、葉・花のイラスト、特徴等を入れた二二cm×一六cmで、地上1mくらいの所に人から見えやすく斜めに設置されています。皿ヶ峰風景林へは、標高九五〇mまで車での通行が可能で、登山道入口には、夏場でも岩の間から冷気がドライアイスのように白い霧となって吹き出す「風穴」があり、

「ふれあいの森」

協定を締結

〈高知中部森林署〉

八月二四日、高知中部森林管理署と物部川21世紀の森と水の会は別府山へクタールに係る「ふれあいの森における森林整備等に関する協定」を締結しました。

頂上途中の「竜神平」には避難小屋も設置され、老若男女問わず多くの方が登山されています。今後、森とふれあいの場を大切にしたいため整備を進めていくことにしています。



二村署長と岩神代表代行の協定式

物部川21世紀の森と水の会は隣接する林小班およびヒカリ石国有林九一林班においても当署と同意協定を締結しており、日頃より国有林野事業にご理解ご協力をいただいております。今年、国際森林年でもあり、今回の協定締結を機に、今後も「流域のみんなで水源の森を守ろう」という考えのもとにボランティアとして

参加くださる住民の方々と一丸となり、物部川源流の森林整備を進めていくとの決意を新たにしてくださいました。一月には地ごしらえ、ニホンジカによる食害防護柵設置等を行い、春の植樹に向けて準備を進めていく計画になっています。当署も活動に協力し、普及活動に取り組んで参ります。

